

第3章 ごみ排出量の推計

1) 推計方法

本市におけるごみ排出量を推計するにあたっては、生活系ごみと事業系ごみに分けて、それぞれ過去の実績値の推移から時系列トレンド推計方式により推計を行った。なお、人口については、可児市人口ビジョンを基に算定した数値を用いた。

生活系ごみについては、収集区分ごとの排出量原単位を基に推計し、さらに各収集区分における品目の実績割合で按分して算出した。事業系ごみについては、年間排出量の推移を基に推計を行い、品目ごとに按分して算出した。

実績値としては、平成22年から平成26年までの5年間の実績値を基に推計を行った。

推計に用いる推計式は、「ごみ処理施設構造指針解説（旧）」（環境省）に基づき、次頁の表3-2に示す式を用いた。また、推計結果では、これまでのごみ量の推移や今後の社会経済情勢等を踏まえ、より実績に近いと考えられる推計式を採用した。

表3-1 各ごみの推計方法及び採用実績

項目		推計方法	採用実績値
生活系ごみ	可燃ごみ	排出量原単位×将来人口	H22～H26
	不燃ごみ	排出量原単位×将来人口	
	金物類	不燃ごみ排出量を按分	
	ガラス類		
	陶磁器類		
	粗大ごみ	排出量原単位×将来人口	
	可燃粗大	粗大ごみ排出量を按分	
	不燃粗大		
	リサイクル資源	-	
	ビン	排出量原単位×将来人口	
	カン		
	ペットボトル		
	発泡スチロール・トレイ		
	紙容器		
	その他ごみ（拠点回収）	排出量原単位書×将来人口	
	使用済み小型家電	その他ごみ排出量を按分	
乾電池・蛍光灯等			
集団回収	排出量原単位×将来人口		
各収集品目	集団回収量を按分		
直接搬入ごみ（瓦礫類）	排出量原単位×将来人口		
事業系ごみ	年間排出量		
各収集ごみ	事業系ごみ排出量を按分		

表3-2 推計に用いた推計式及びその特徴

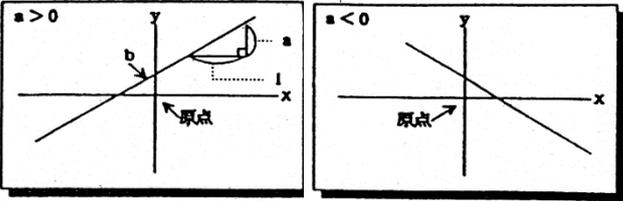
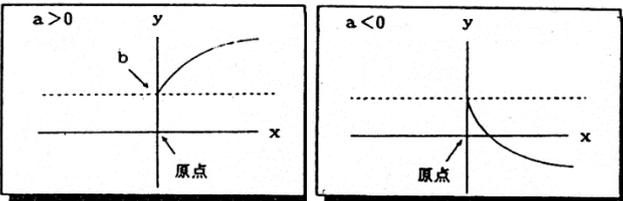
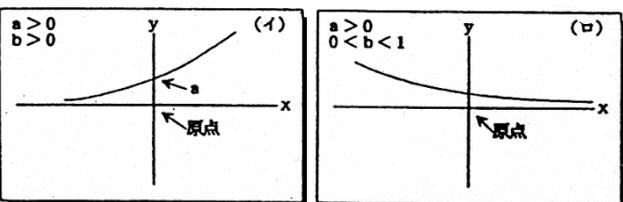
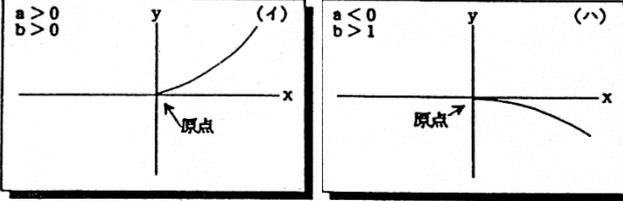
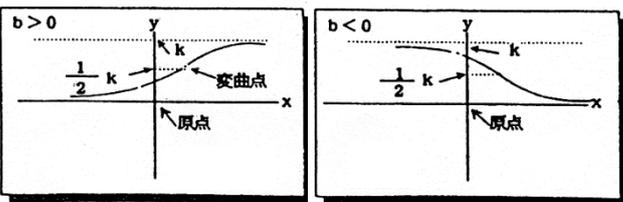
数式	数式図	特徴
直線式 $y = aX + b$		単調な増加(減少)を示す直線式
自然対数式 $y = a \log X + b$		年次とともに増加率(減少率)が収縮していく曲線式
指数式 $y = ab^x$		年次とともに緩やかに増加(減少)していく曲線式
べき乗式 $y = aX^b$		年次とともに増加率(減少率)が増大していく曲線式
ロジスティック式 $y = k / (1 + e^{-bX})$		最初は増加(減少)し、中間でその増加率(減少率)が最大になった後、無限年後に飽和に達する曲線式

表3-3 推計に用いた人口

年		人口 (人)
実績値※1	H21	98,707
	H22	97,461
	H23	97,436
	H24	97,529
	H25	97,308
	H26	96,873
推計値※2	H27	96,562
	H28	96,305
	H29	96,048
	H30	95,791
	H31	95,534
	H32	95,277
	H33	94,934
	H34	94,591
	H35	94,247
	H36	93,904
	H37	93,560

※1 実績値人口については、人口動態統計調査結果（岐阜県統計課調べ）による。

※2 推計値人口については、可児市人口ビジョンを基に算定した。

2) 生活系ごみ排出量の推計

(1) 可燃ごみ排出量の推計

過去5年間の実績を基に推計した、生活系可燃ごみ排出量原単位の推計結果を図3-1、表3-4に示す。

経年変化が平成23年から25年度にかけて横ばい状況を示しているが増加傾向を示しているため、緩やかな増加傾向を反映し、相関係数の高い自然対数式を採用した。

計画目標年度の平成37年度における排出量原単位は、平成26年度の483.8g/人・日から1.7%増加し、491.8g/人・日になるものと見込まれる。

図3-1 生活系可燃ごみ排出量原単位推計結果

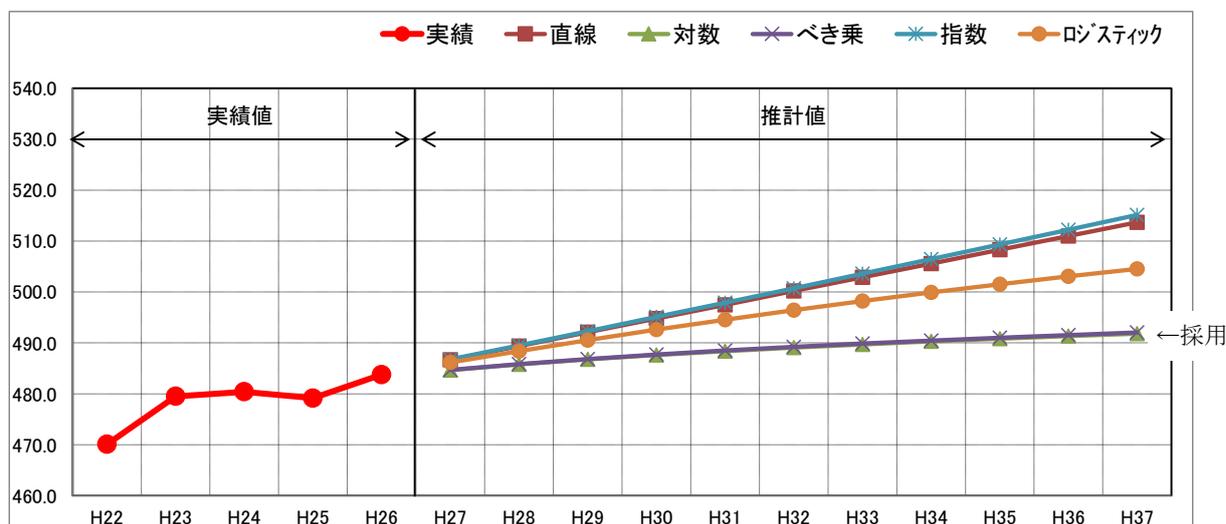


表3-4 生活系可燃ごみ排出量原単位推計結果

項目	排出量原単位 (g/人・日)		H26 に対する 増加率 (%)	相関係数	判定結果
	H26 (実績値)	H37 (推計値)			
実績値	483.8	-	-	-	-
直線式	-	513.7	6.2%	0.840	-
自然対数式	-	491.8	1.7%	0.910	○
べき乗式	-	492.0	1.7%	0.910	-
指数式	-	515.1	6.5%	0.839	-
ロジスティック式	-	504.5	4.3%	0.847	-

(2) 不燃ごみ排出量の推計

過去5年間の実績を基に推計した、生活系不燃ごみ排出量原単位の推計結果を図3-2、表3-5に示す。

平成24年度以降減少傾向を示しているが、過去5年間では増加傾向を示す傾向であることから、緩やかな増加傾向を反映し、相関係数が最も高いべき乗式を採用した。

計画目標年度の平成37年における排出量原単位は、平成26年度の22.3g/人・日から30.9%増加し、29.2g/人・日になるものと見込まれる。

図3-2 生活系不燃ごみ排出量原単位推計結果

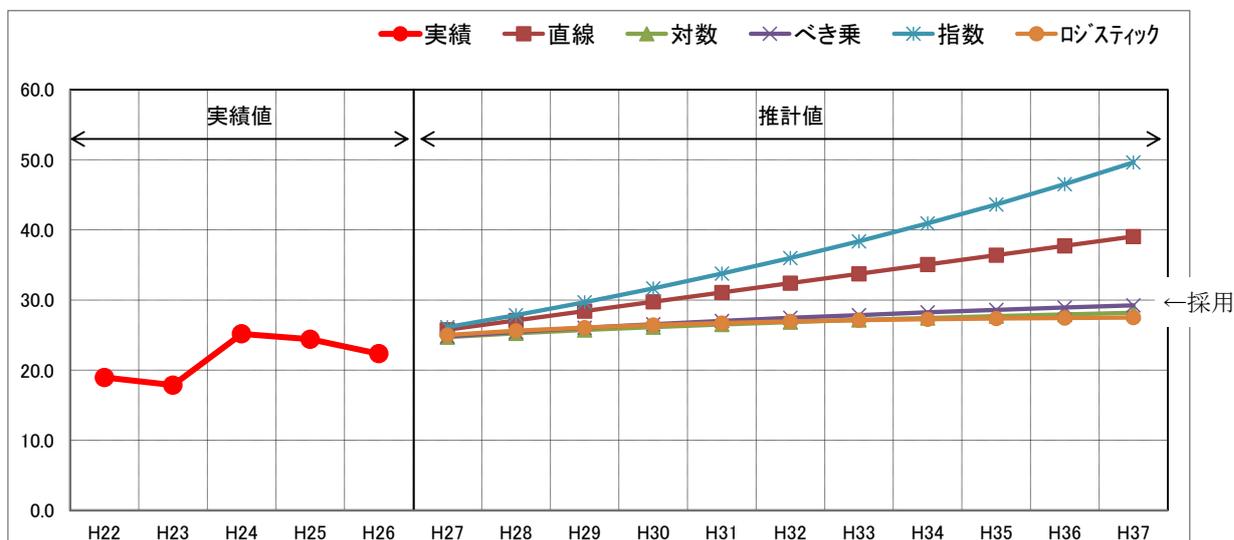


表3-5 生活系不燃ごみ排出量原単位推計結果

項目	排出量原単位 (g/人・日)		H26 に対する 増加率 (%)	相関係数	判定結果
	H26 (実績値)	H37 (推計値)			
実績値	22.3	-	-	-	-
直線式	-	39.1	75.0%	0.649	-
自然対数式	-	28.2	26.1%	0.693	-
べき乗式	-	29.2	30.9%	0.701	○
指数式	-	49.6	122.2%	0.666	-
ロジスティック式	-	27.5	23.1%	0.577	-

(3) 粗大ごみ排出量の推計

過去5年間の実績を基に推計した、生活系粗大ごみ排出量原単位の推計結果を図3-3、表3-6に示す。

粗大ごみは減少傾向で推移しているものの、今後も排出される傾向にあるため、相関係数が最も高く、減少傾向が緩やかな自然対数式を採用した。

計画目標年度の平成37年における排出量原単位は、平成26年度の4.0g/人・日から30.3%減少し、2.8g/人・日になるものと見込まれる。

図3-3 生活系粗大ごみ排出量原単位推計結果

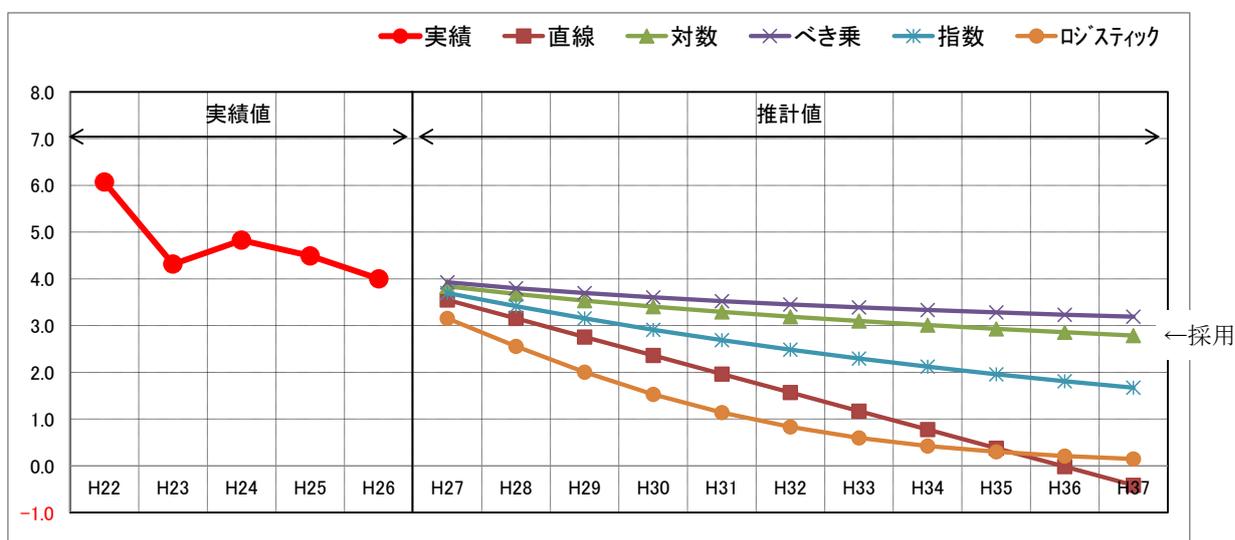


表3-6 生活系粗大ごみ排出量原単位推計結果

項目	排出量原単位 (g/人・日)		H26に対する 増加率 (%)	相関係数	判定結果
	H26 (実績値)	H37 (推計値)			
実績値	4.0	-	-	-	-
直線式	-	-0.4	-110.4%	0.783	-
自然対数式	-	2.8	-30.3%	0.854	○
べき乗式	-	3.2	-20.3%	0.848	-
指数式	-	1.7	-58.3%	0.789	-
ロジスティック式	-	0.1	-96.3%	0.770	-

(4) リサイクル資源排出量の推計

①ビン排出量

過去5年間の実績を基に推計した、生活系リサイクル資源のうちビン排出量原単位の推計結果を図3-4、表3-7に示す。

現状の推移は年々減少していて、今後も同様に減少し続けると考え、指数式を採用した。

計画目標年度の平成37年度における排出量原単位は、平成26年度の9.0g/人・日から34.5%減少し5.9g/人・日になるものと見込まれる。

図3-4 生活系リサイクル資源（ビン）排出量原単位推計結果

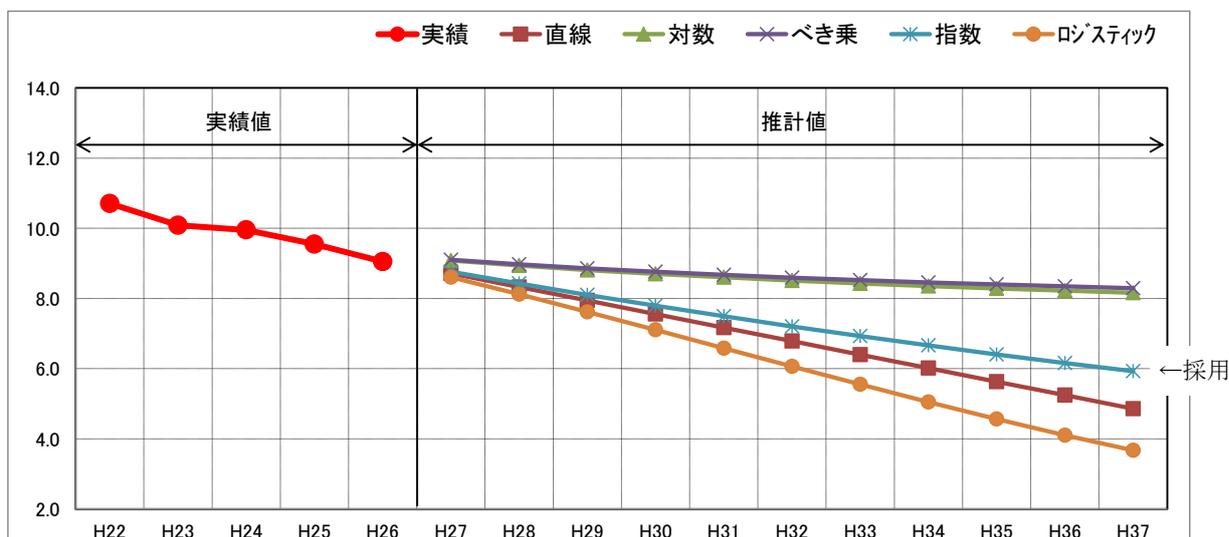


表3-7 生活系リサイクル資源（ビン）排出量原単位推計結果

項目	排出量原単位 (g/人・日)		H26 に対する 増加率 (%)	相関係数	判定結果
	H26 (実績値)	H37 (推計値)			
実績値	9.0	-	-	-	-
直線式	-	4.9	-46.3%	0.985	-
自然対数式	-	8.2	-9.8%	0.966	-
べき乗式	-	8.3	-8.4%	0.960	-
指数式	-	5.9	-34.5%	0.985	○
ロジスティック式	-	3.7	-59.4%	0.981	-

②カン排出量

過去5年間の実績を基に推計した、生活系リサイクル資源のうちカン排出量原単位の推計を図3-5、表3-8に示す。

平成24年度以降の傾向を踏まえ、現状の推移曲線に最も近い自然対数式を採用した。計画目標年度の平成37年度における排出量原単位は、平成26年度の2.3g/人・日から14.3%減少し、1.9g/人・日になるものと見込まれる。

図3-5 生活系リサイクル資源（カン）排出量原単位推計結果

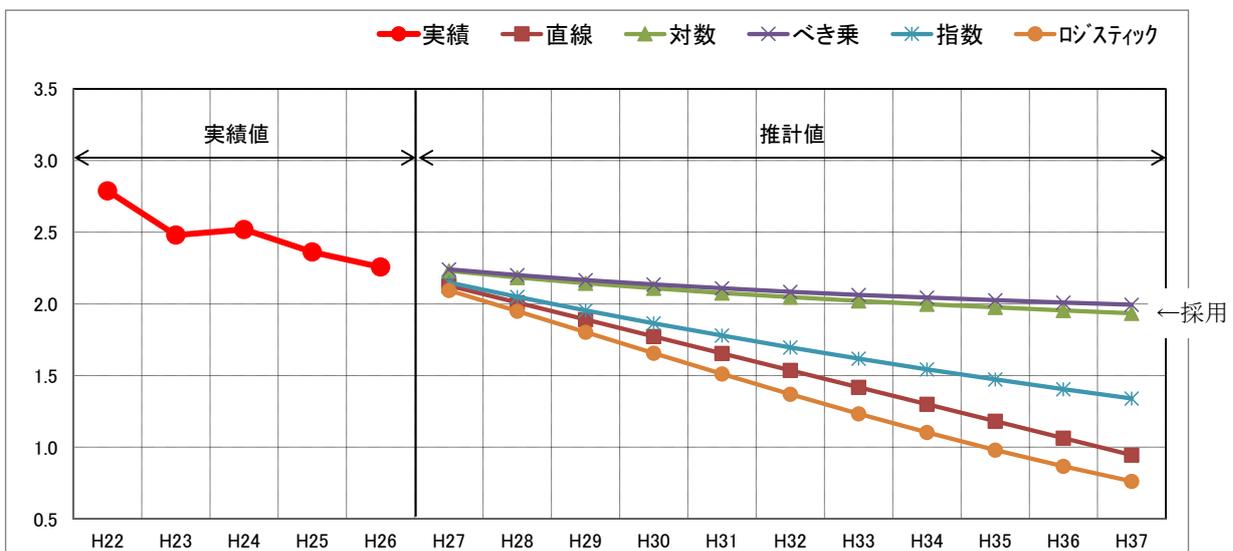


表3-8 生活系リサイクル資源（カン）排出量原単位推計結果

項目	排出量原単位 (g/人・日)		H26 に対する 増加率 (%)	相関係数	判定結果
	H26 (実績値)	H37 (推計値)			
実績値	2.3	-	-	-	-
直線式	-	0.9	-58.1%	0.933	-
自然対数式	-	1.9	-14.3%	0.954	○
べき乗式	-	2.0	-11.7%	0.953	-
指数式	-	1.3	-40.6%	0.939	-
ロジスティック式	-	0.8	-66.2%	0.921	-

③ペットボトル排出量

過去5年間の実績を基に推計した、生活リサイクル資源のうちペットボトル排出量原単位の推計結果を図3-6、表3-9に示す。

スーパー等における回収ルートも多く、今後も維持されることが見込まれることから、本市の回収量は減少傾向で推移していくが、全国的な傾向として生産量及び資源化量は増加傾向が見込まれることから、相関係数の高い自然対数式を採用した。

計画目標年度の平成37年度における排出量原単位は、平成26年度の1.9g/人・日から7.3%減少し、1.8g/人・日になるものと見込まれる。

図3-6 生活系リサイクル資源（ペットボトル）排出量原単位推計結果

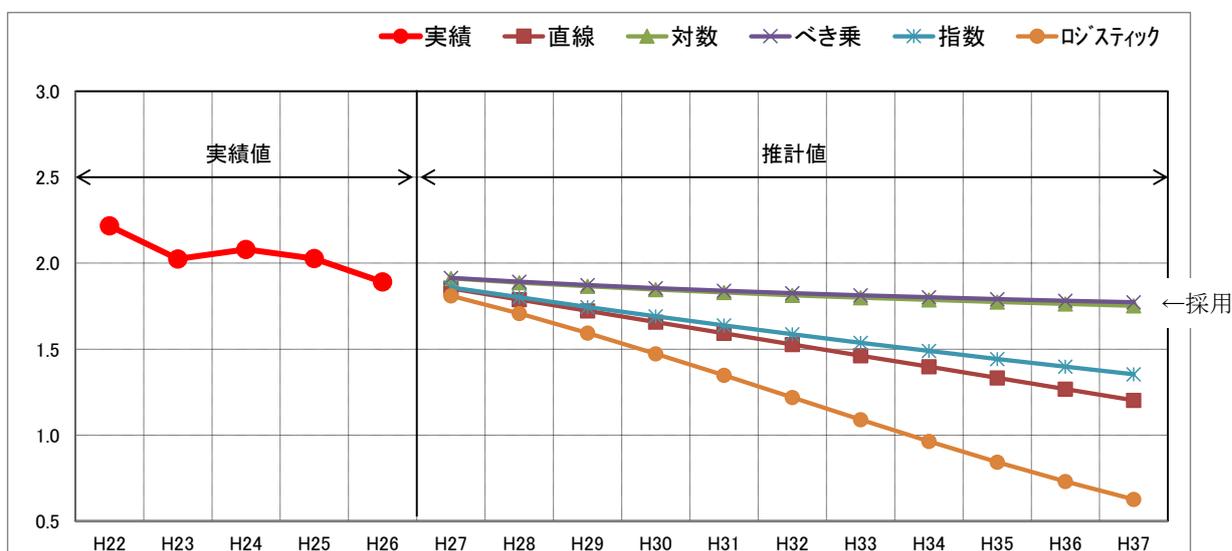


表3-9 生活系リサイクル資源（ペットボトル）排出量原単位推計結果

項目	排出量原単位 (g/人・日)		H26 に対する 増加率 (%)	相関係数	判定結果
	H26 (実績値)	H37 (推計値)			
実績値	1.9	-	-	-	-
直線式	-	1.2	-36.4%	0.874	-
自然対数式	-	1.8	-7.3%	0.879	○
べき乗式	-	1.8	-6.2%	0.873	-
指数式	-	1.4	-28.4%	0.875	-
ロジスティック式	-	0.6	-66.8%	0.864	-

④ペットボトルキャップ排出量

過去5年間の実績を基に推計した、生活系リサイクル資源のうちペットボトルキャップ排出量原単位の推計結果を図3-7、表3-10に示す。

相関係数が最も高いことから、ロジスティック式を採用した。

計画目標年度の平成37年度における排出量原単位は、平成26年度の0.037g/人・日から10.0%増加し、0.040g/人・日になるものと見込まれる。

図3-7 生活系リサイクル資源（ペットボトルキャップ）排出量原単位推計結果

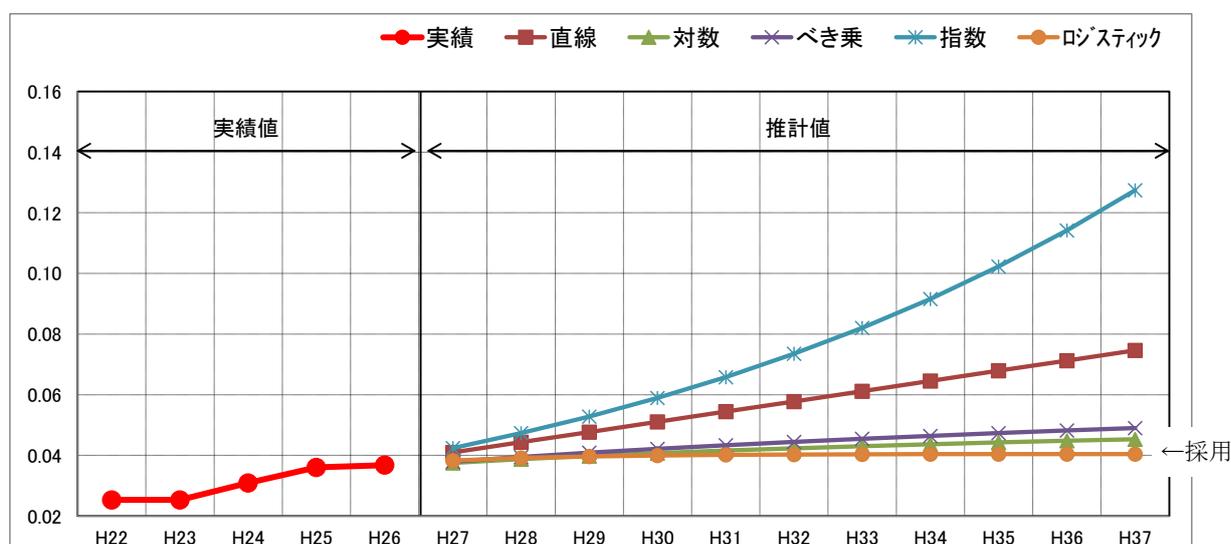


表3-10 生活系リサイクル資源（ペットボトルキャップ）排出量原単位推計結果

項目	排出量原単位 (g/人・日)		H26 に対する 増加率 (%)	相関係数	判定結果
	H26 (実績値)	H37 (推計値)			
実績値	0.037	-	-	-	-
直線式	-	0.075	103.0%	0.958	-
自然対数式	-	0.045	23.3%	0.911	-
べき乗式	-	0.049	33.3%	0.915	-
指数式	-	0.127	246.7%	0.956	-
ロジスティック式	-	0.040	10.0%	0.960	○

⑤発泡スチロール・トレイ排出量

過去5年間の実績を基に推計した、生活系リサイクル資源のうち発泡スチロール・トレイ排出量原単位の推計結果を図3-8、表3-11に示す。

スーパー等における回収ルートも多く、今後も維持されることが見込まれることから、本市の回収量は、減少傾向となっている。

相関係数の高く、最近の減少傾向を反映している直線式を採用した。

計画目標年度の平成37年度における排出量原単位は、平成26年度の0.7g/人・日から46.9%減少し、0.4g/人・日になるものと見込まれる。

図3-8 生活系リサイクル資源（発泡スチロール・トレイ）排出量原単位推計結果

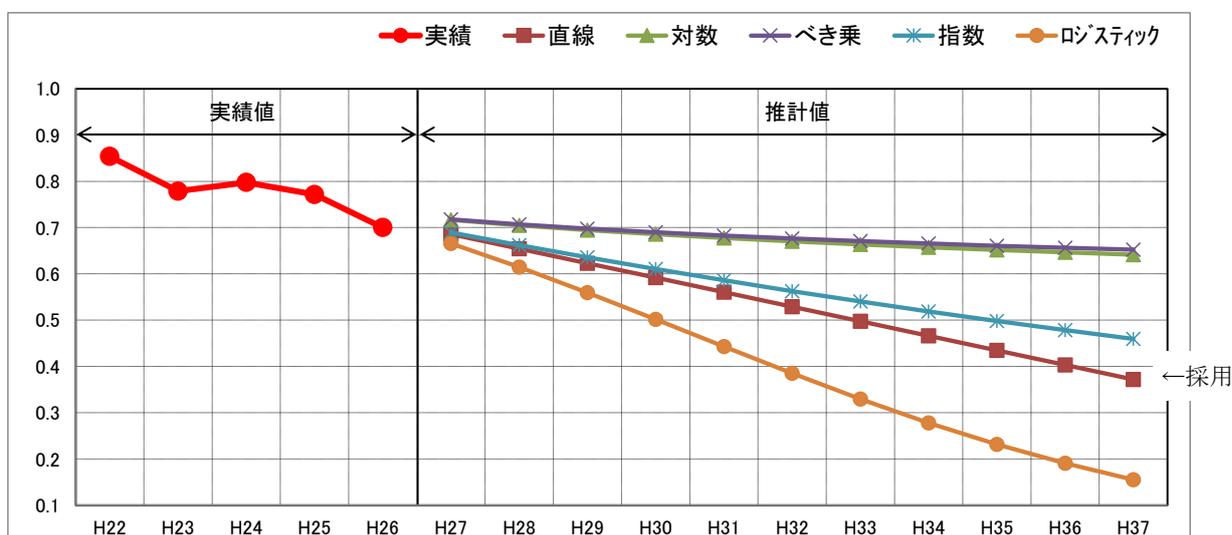


表3-11 生活系リサイクル資源（発泡スチロール・トレイ）排出量原単位推計結果

項目	排出量原単位 (g/人・日)		H26 に対する 増加率 (%)	相関係数	判定結果
	H26 (実績値)	H37 (推計値)			
実績値	0.7	-	-	-	-
直線式	-	0.4	-46.9%	0.901	○
自然対数式	-	0.6	-8.4%	0.880	-
べき乗式	-	0.7	-6.9%	0.870	-
指数式	-	0.5	-34.4%	0.899	-
ロジスティック式	-	0.2	-77.8%	0.897	-

⑥紙容器排出量

過去5年間の実績を基に推計した、生活系リサイクル資源のうち紙容器排出量原単位の推計結果を図3-9、表3-12に示す。

相関係数が最も高いことから、自然対数式を採用した。

計画目標年度の平成37年度における排出量原単位は、平成26年度の1.7g/人・日から20.9%減少し、1.3g/人・日になるものと見込まれる。

図3-9 生活系リサイクル資源（紙容器）排出量原単位推計結果

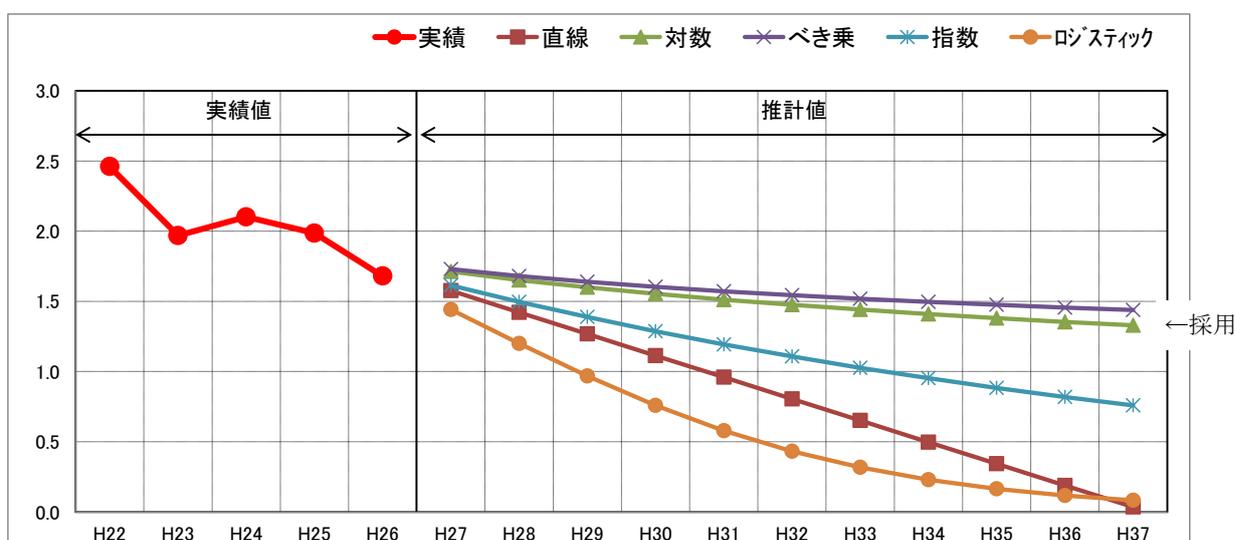


表3-12 生活系リサイクル資源（紙容器）排出量原単位推計結果

項目	排出量原単位(g/人・日)		H26に対する 増加率 (%)	相関係数	判定結果
	H26 (実績値)	H37 (推計値)			
実績値	1.7	-	-	-	-
直線式	-	0.0	-97.9%	0.865	-
自然対数式	-	1.3	-20.9%	0.883	○
べき乗式	-	1.4	-14.4%	0.871	-
指数式	-	0.8	-54.8%	0.869	-
ロジスティック式	-	0.1	-95.1%	0.845	-

⑦新聞排出量

過去5年間の実績を基に推計した、生活系リサイクル資源のうち新聞排出量原単位の推計結果を図3-10、表3-13に示す。

相関係数が最も高いことから、指数式を採用した。

計画目標年度の平成37年度における排出量原単位は、平成26年度の1.7g/人・日から46.3%減少し、0.9g/人・日になるものと見込まれる。

図3-10 生活系リサイクル資源（新聞）排出量原単位推計結果

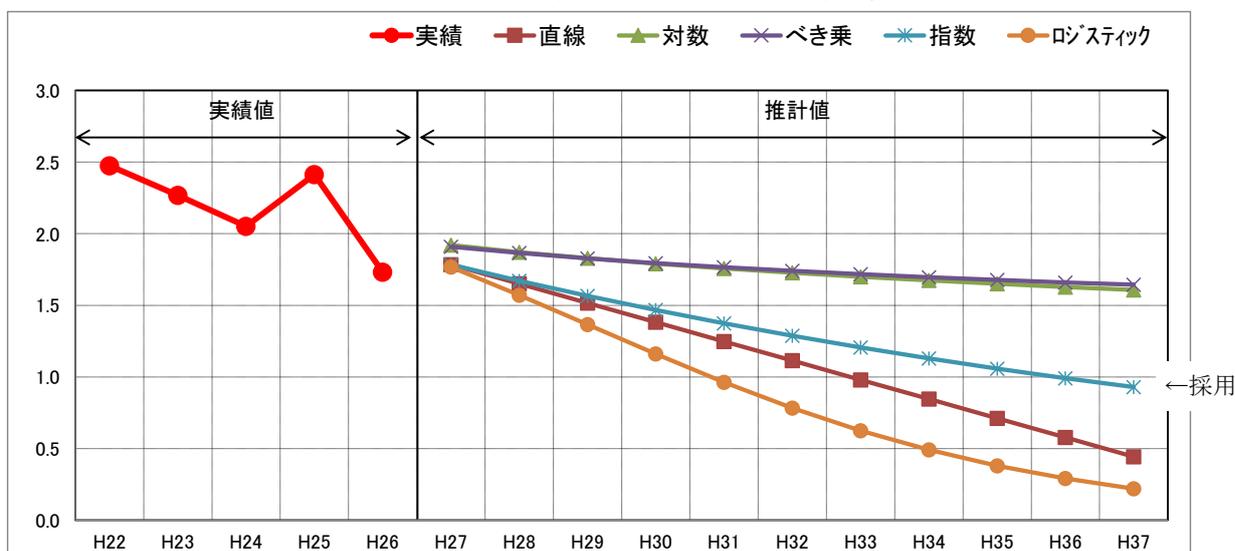


表3-13 生活系リサイクル資源（新聞）排出量原単位推計結果

項目	排出量原単位 (g/人・日)		H26 に対する 増加率 (%)	相関係数	判定結果
	H26 (実績値)	H37 (推計値)			
実績値	1.7	-	-	-	-
直線式	-	0.4	-74.3%	0.701	-
自然対数式	-	1.6	-7.1%	0.671	-
べき乗式	-	1.6	-5.1%	0.668	-
指数式	-	0.9	-46.3%	0.709	○
ロジスティック式	-	0.2	-87.2%	0.681	-

⑧雑誌等排出量

過去5年間の実績を基に推計した、生活系リサイクル資源のうち雑誌等排出量原単位の推計結果を図3-11、表3-14に示す。

相関係数が最も高いことから、指数式を採用した。

計画目標年度の平成37年度における排出量原単位は、平成26年度の3.4g/人・日から59.5%減少し、1.4g/人・日になるものと見込まれる。

図3-11 生活系リサイクル資源（雑誌等）排出量原単位推計結果

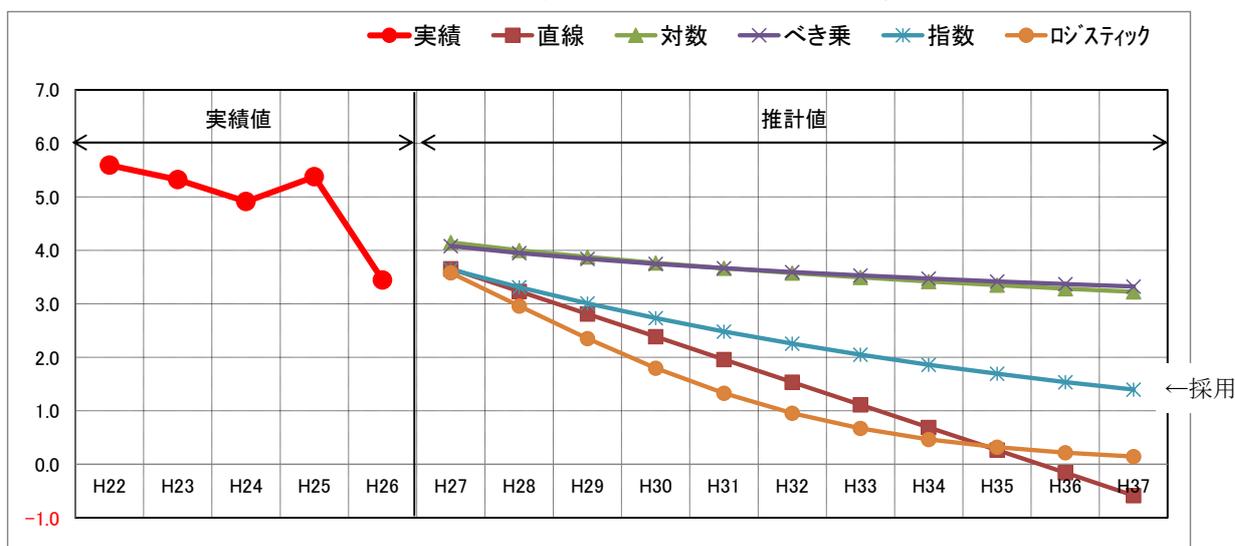


表3-14 生活系リサイクル資源（雑誌等）排出量原単位推計結果

項目	排出量原単位 (g/人・日)		H26 に対する 増加率 (%)	相関係数	判定結果
	H26 (実績値)	H37 (推計値)			
実績値	3.4	-	-	-	-
直線式	-	-0.6	-117.0%	0.774	-
自然対数式	-	3.2	-6.4%	0.689	-
べき乗式	-	3.3	-3.5%	0.671	-
指数式	-	1.4	-59.5%	0.766	○
ロジスティック式	-	0.1	-95.8%	0.800	-

⑨ダンボール排出量

過去5年間の実績を基に推計した、生活系リサイクル資源のうちダンボール排出量原単位の推計結果を図3-12、表3-15に示す。

相関係数が最も高いことから、指数式を採用した。

計画目標年度の平成37年度における排出量原単位は、平成26年度の1.55g/人・日から4.3%増加し、1.62g/人・日になるものと見込まれる。

図3-12 生活系リサイクル資源（ダンボール）排出量原単位推計結果

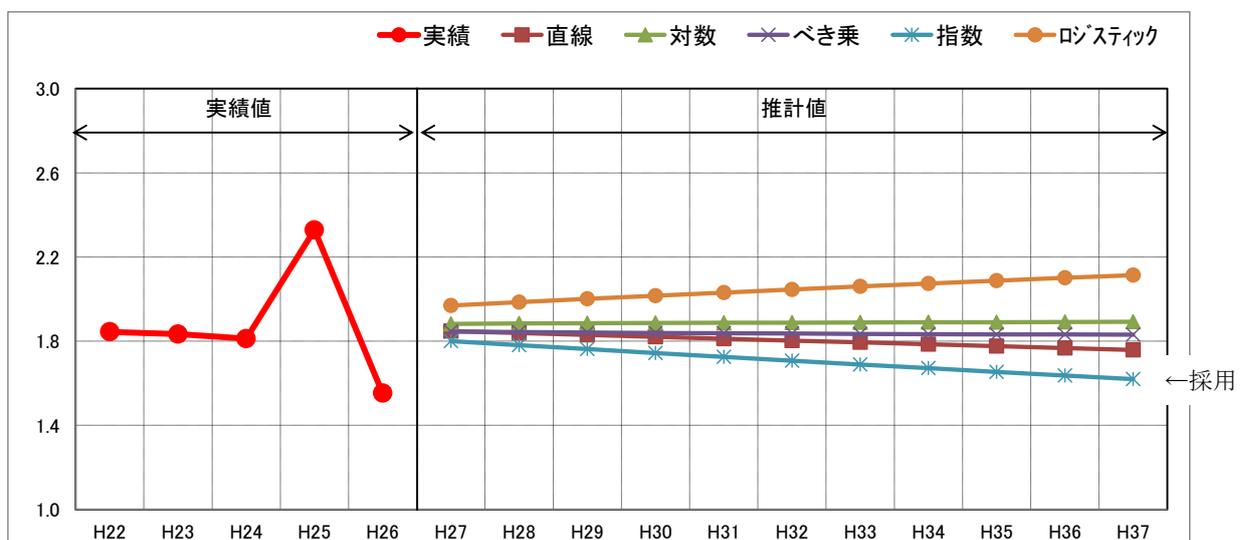


表3-15 生活系リサイクル資源（ダンボール）排出量原単位推計結果

項目	排出量原単位 (g/人・日)		H26に対する 増加率 (%)	相関係数	判定結果
	H26 (実績値)	H37 (推計値)			
実績値	1.55	-	-	-	-
直線式	-	1.76	13.3%	0.050	-
自然対数式	-	1.89	21.9%	0.022	-
べき乗式	-	1.83	17.9%	0.036	-
指数式	-	1.62	4.3%	0.115	○
ロジスティック式	-	2.11	36.2%	0.079	-

⑩牛乳パック排出量

過去5年間の実績を基に推計した、生活系リサイクル資源のうち牛乳パック排出量原単位の推計結果を図3-13、表3-16に示す。

相関係数が最も高いことから、自然対数式を採用した。

計画目標年度の平成37年度における排出量原単位は、平成26年度の0.058g/人・日から20.1%減少し、0.047g/人・日になるものと見込まれる。

図3-13 生活系リサイクル資源（牛乳パック）排出量原単位推計結果

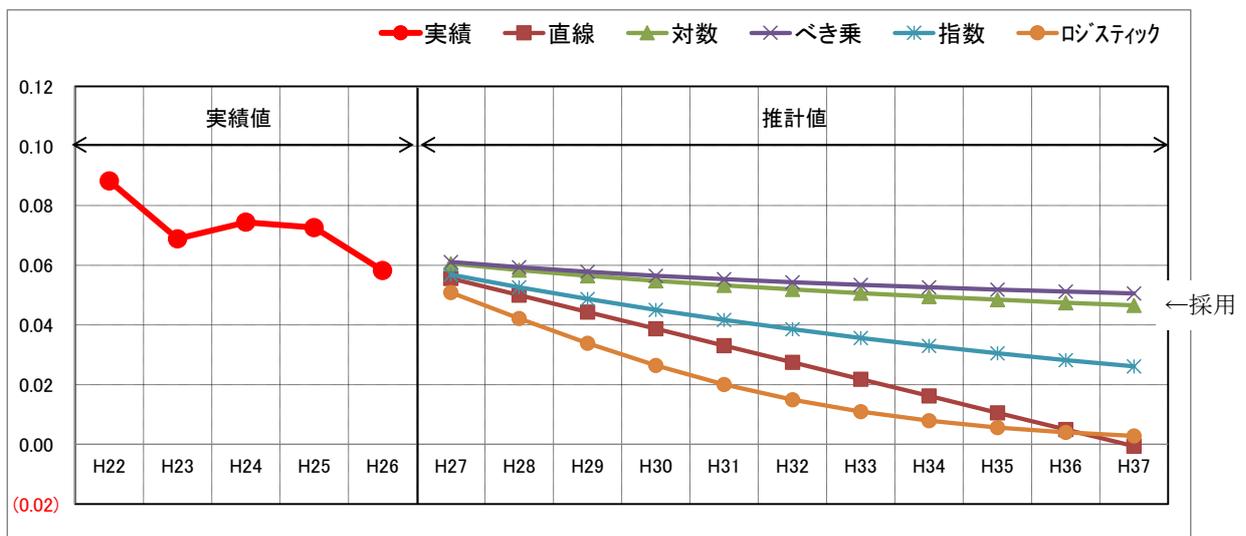


表3-16 生活系リサイクル資源（牛乳パック）排出量原単位推計結果

項目	排出量原単位 (g/人・日)		H26 に対する 増加率 (%)	相関係数	判定結果
	H26 (実績値)	H37 (推計値)			
実績値	0.058	-	-	-	-
直線式	-	-0.001	-101.1%	0.822	-
自然対数式	-	0.047	-20.1%	0.840	○
べき乗式	-	0.051	-13.2%	0.823	-
指数式	-	0.026	-55.1%	0.822	-
ロジスティック式	-	0.003	-95.1%	0.815	-

⑪ 繊維類排出量

過去5年間の実績を基に推計した、生活系リサイクル資源のうち繊維類排出量原単位の推計結果を図3-14、表3-17に示す。

相関係数が最も高いことから、べき乗式を採用した。

計画目標年度の平成37年度における排出量原単位は、平成26年度の0.9g/人・日から63.2%増加し、1.5g/人・日になるものと見込まれる。

図3-14 生活系リサイクル資源（繊維類）排出量原単位推計結果

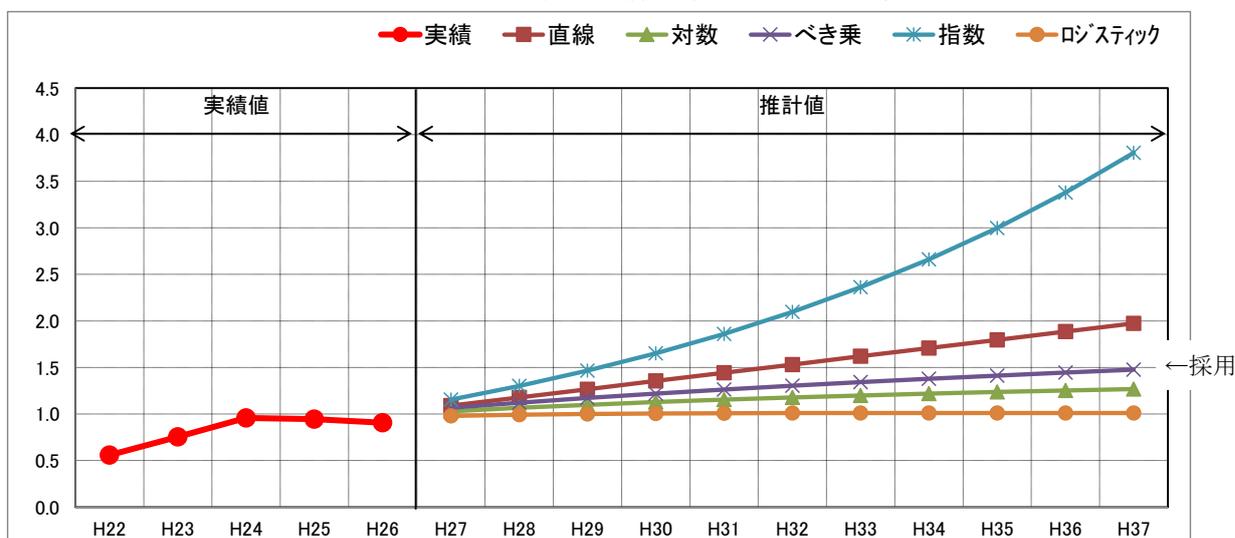


表3-17 生活系リサイクル資源（繊維類）排出量原単位推計結果

項目	排出量原単位 (g/人・日)		H26 に対する 増加率 (%)	相関係数	判定結果
	H26 (実績値)	H37 (推計値)			
実績値	0.9	-	-	-	-
直線式	-	2.0	118.0%	0.827	-
自然対数式	-	1.3	40.2%	0.922	-
べき乗式	-	1.5	63.2%	0.928	○
指数式	-	3.8	320.4%	0.828	-
ロジスティック式	-	1.0	11.7%	0.766	-

(5) その他ごみ排出量の推計

過去5年間の実績を基に推計した、生活系その他ごみ排出量原単位の推計結果を図3-15、表3-18に示す。

現状の推移では、増減は見られるが、今後の大幅な増加は考えにくいことから、最も減少が緩やかな自然対数式を採用した。

計画目標年度の平成37年度における排出量原単位は、平成26年度の1.2g/人・日から12.3%減少し、1.0g/人・日になるものと見込まれる。

図3-15 生活系その他ごみ排出量原単位推計結果

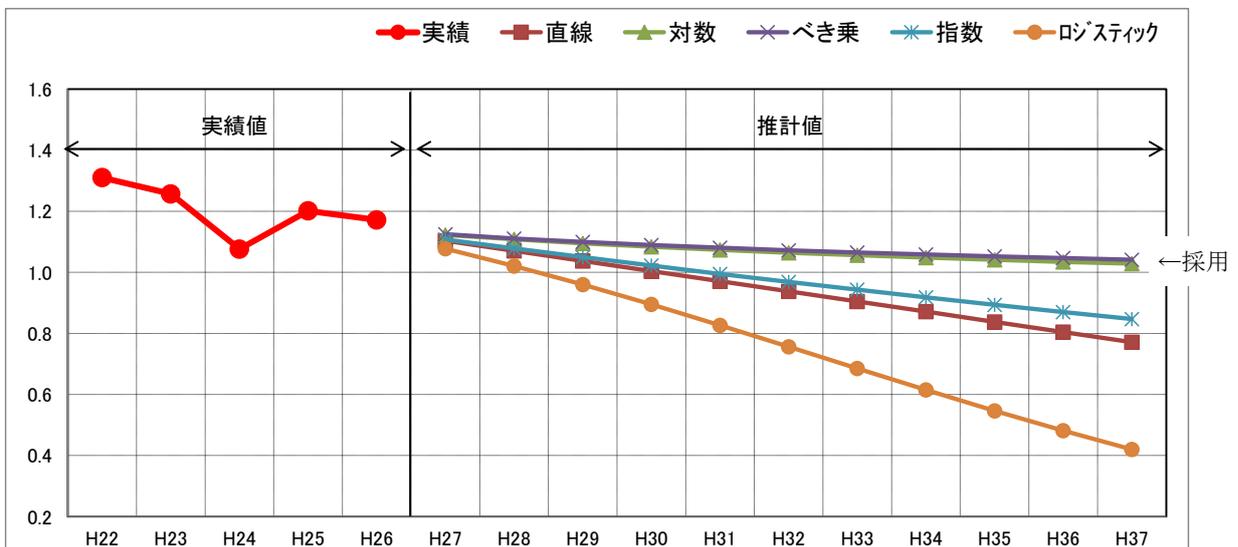


表3-18 生活系その他ごみ排出量原単位推計結果

項目	排出量原単位 (g/人・日)		H26 に対する 増加率 (%)	相関係数	判定結果
	H26 (実績値)	H37 (推計値)			
実績値	1.2	-	-	-	-
直線式	-	0.8	-34.2%	0.592	-
自然対数式	-	1.0	-12.3%	0.690	○
べき乗式	-	1.0	-11.1%	0.667	-
指数式	-	0.8	-27.7%	0.568	-
ロジスティック式	-	0.4	-64.1%	0.675	-

(6) 集団回収量の推計

過去5年間の実績を基に推計した、集団回収量原単位の推計結果を図3-16、表3-19に示す。

集団回収の現状の整理でも、全体的に減少傾向を示しているが、今後もより資源化率を上げるため集団回収を推進していく。そこで、相関係数が高い中から減少傾向の緩やかな自然対数式を採用した。

計画目標年度の平成37年度における集団回収量原単位は、平成26年度の81.5g/人・日から22.8%減少し、62.9g/人・日になるものと見込まれる。

図3-16 集団回収量原単位推計結果

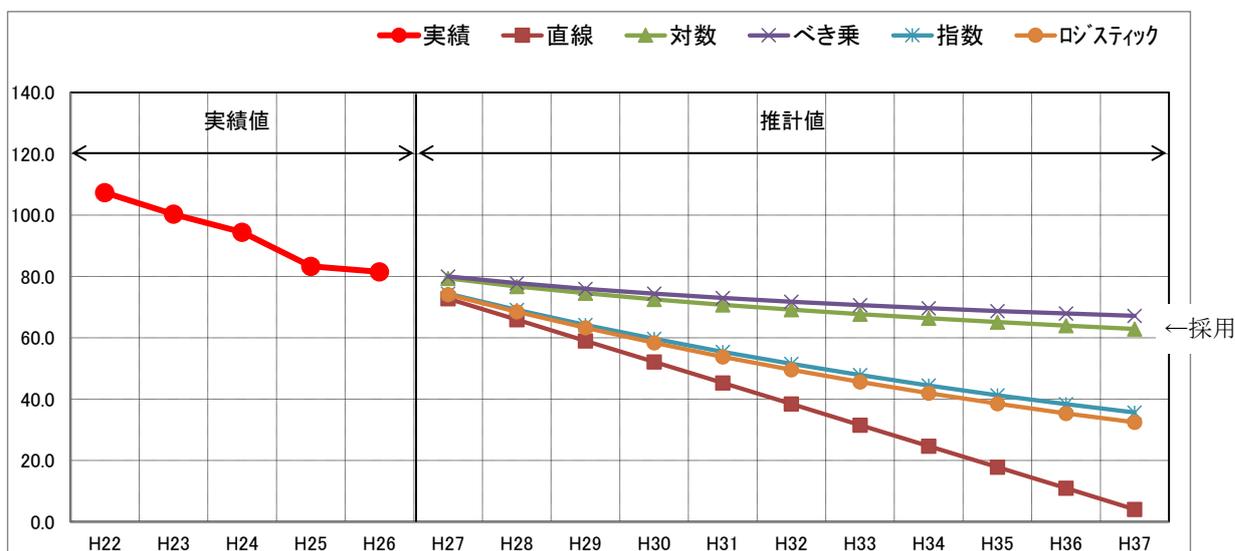


表3-19 集団回収量原単位推計結果

項目	排出量原単位 (g/人・日)		H26 に対する 増加率 (%)	相関係数	判定結果
	H26 (実績値)	H37 (推計値)			
実績値	81.5	-	-	-	-
直線式	-	4.1	-95.0%	0.984	-
自然対数式	-	62.9	-22.8%	0.967	○
べき乗式	-	67.1	-17.6%	0.959	-
指数式	-	35.6	-56.3%	0.984	-
ロジスティック式	-	32.5	-60.2%	0.984	-

(7) 生活系ごみ排出量推計結果のまとめ

前頁までに推計した生活系ごみの収集区分別排出量原単位に、将来人口を乗じて年間の排出量を算出し、さらに各収集区分における品目を実績割合で按分した結果を表3-20に示す。

表3-20 生活系ごみ排出量推計結果のまとめ

項目	H26 (実績値)		H37 (推計値)		H26 からの増減	
	排出量 (t/年)	構成比 (%)	排出量 (t/年)	構成比 (%)	排出量 (t/年)	構成比 (%)
収集ごみ	18,900.5	86.8	18,497.7	89.6	△ 402.8	-2.1
可燃ごみ	17,105.1	78.5	16,794.7	81.3	△ 310.4	-1.8
不燃ごみ	789.0	3.6	998.2	4.8	209.2	26.5
金物類	377.9	1.7	455.1	2.2	77.2	20.4
ガラス類	106.2	0.5	149.6	0.7	43.4	40.8
陶磁器類	304.9	1.4	393.6	1.9	88.7	29.1
粗大ごみ	141.3	0.7	95.2	0.5	△ 46.1	-32.6
可燃粗大	92.7	0.4	65.1	0.3	△ 27.6	-29.8
不燃粗大	48.6	0.2	30.1	0.2	△ 18.5	-38.1
その他ごみ(拠点回収)	41.4	0.2	35.1	0.2	△ 6.3	-15.2
使用済み小型家電	2.8	0.01	0.4	0.0	△ 2.4	-85.7
乾電池	21.1	0.1	20.5	0.1	△ 0.6	-2.9
蛍光灯等	12.9	0.1	11.4	0.1	△ 1.5	-11.9
廃食用油	4.6	0.02	2.9	0.01	△ 1.7	-37.6
リサイクル資源	823.7	3.8	574.5	2.8	△ 249.2	-30.3
ビン	320.0	1.5	202.3	1.0	△ 117.6	-36.8
カン	79.8	0.4	66.1	0.3	△ 13.7	-17.1
ペットボトル	66.8	0.3	59.9	0.3	△ 6.9	-10.4
ペットボトルキャップ	1.3	0.01	1.4	0.01	0.1	6.2
発泡スチロール・トレイ	24.7	0.1	12.7	0.1	△ 12.1	-48.7
紙容器	59.4	0.3	45.4	0.2	△ 14.0	-23.6
新聞	61.2	0.3	31.7	0.2	△ 29.4	-48.1
雑誌・チラシ	121.7	0.6	47.7	0.2	△ 74.0	-60.8
ダンボール	54.8	0.3	55.3	0.3	0.5	0.8
牛乳パック	2.1	0.01	1.6	0.01	△ 0.5	-22.8
繊維類	32.0	0.2	50.4	0.2	18.5	57.7
集団回収	2,881.6	13.2	2,147.7	10.4	△ 733.9	-25.5
ビン	0.9	0.0	0.6	0.0	△ 0.3	-31.1
カン	24.2	0.1	14.8	0.1	△ 9.5	-39.0
紙容器	12.5	0.1	5.5	0.03	△ 7.0	-55.7
新聞	1,269.3	5.8	928.4	4.5	△ 340.9	-26.9
雑誌等	1,099.1	5.1	862.2	4.2	△ 236.9	-21.6
ダンボール	405.3	1.9	284.6	1.4	△ 120.7	-29.8
牛乳パック	16.4	0.1	12.0	0.1	△ 4.4	-26.6
繊維類	53.9	0.3	39.6	0.2	△ 14.3	-26.6
生活系ごみ合計	21,782.1	100.0	20,645.4	100.0	△ 1136.7	-5.2

※マイナスとなっている量は「△」、割合に関しては「-」として表示を区別。

3) 事業系ごみ排出量の推計

過去5年間の実績を基に推計した、事業系ごみ排出量の推計結果を図3-17、表3-21に示す。

事業系ごみ排出量は年度によって著しい増減がみられ、相関係数が低い結果となっている。そこで、過去5年間の実績をもととしたトレンド推計結果の中から、事業系ごみ排出量の推計結果として直線式を採用した。

計画目標年度の平成37年度における事業系ごみの排出量は、平成26年度の7,078.6 t/年から3.9%増加し、7,353.3 t/年になるものと見込まれる。

図3-17 事業系ごみ排出量原単位推計結果

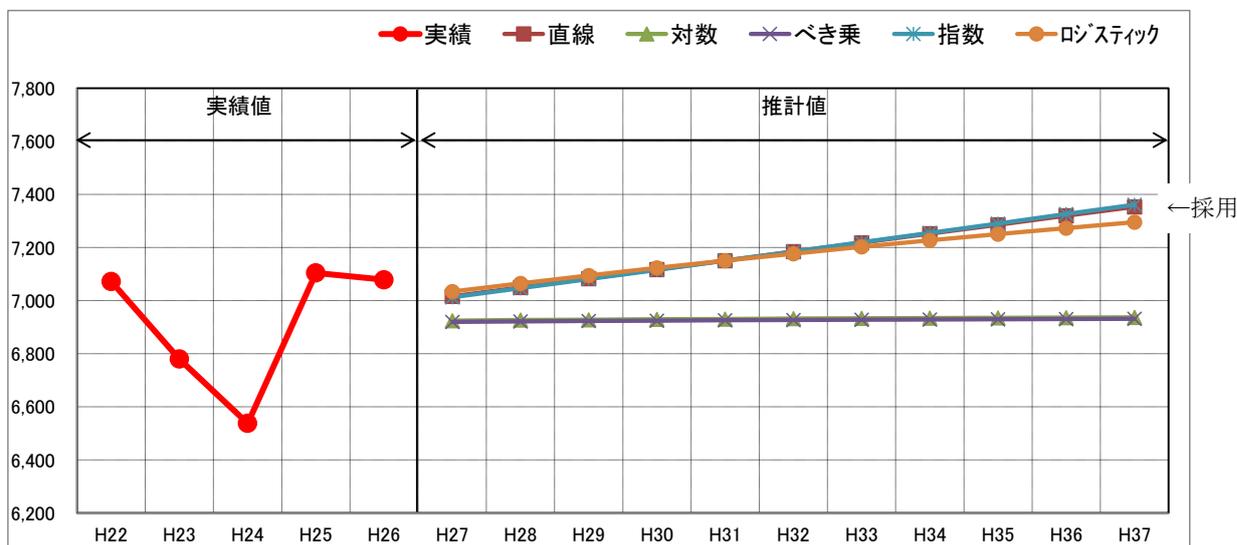


表3-21 事業系ごみ排出量原単位推計結果

項目	排出量 (t) /年		H26 に対する 増加率 (%)	相関係数	判定結果
	H26 (実績値)	H37 (推計値)			
実績値	7078.6	-	-	-	-
直線式	-	7,353.3	3.9%	0.214	○
自然対数式	-	6,936.8	-2.0%	0.031	-
べき乗式	-	6,931.1	-2.1%	0.028	-
指数式	-	7,361.5	4.0%	0.211	-
ロジスティック式	-	7,295.0	3.1%	0.236	-

前頁で推計した事業系ごみ排出量について、種類別の実績割合で按分した結果を表3-22に示す。

表3-22 事業系ごみの種類別排出量推計結果

項目	H26（実績値）		H37（推計値）		H26からの増減	
	排出量 (t/年)	構成比 (%)	排出量 (t/年)	構成比 (%)	増加量 (t/年)	増加率 (%)
可燃ごみ	6,831.0	96.5	7,055.5	96.0	224.5	3.3
不燃ごみ	2.0	0.03	2.8	0.04	0.8	40.0
金物類	1.2	0.02	1.4	0.02	0.2	16.7
ガラス類	0.8	0.01	1.4	0.02	0.6	75.0
粗大ごみ	241.5	3.4	290.5	4.0	49.0	20.3
可燃粗大	207.9	2.9	245.8	3.3	37.9	18.2
不燃粗大	33.6	0.5	44.7	0.6	11.1	33.0
その他ごみ	0.7	0.01	0.7	0.01	0.0	0.0
蛍光灯等	0.7	0.01	0.7	0.01	0.0	0.0
リサイクル資源	3.4	0.05	3.8	0.1	0.4	11.8
ビン	2.7	0.04	3.1	0.04	0.4	14.8
カン	0.7	0.01	0.6	0.01	△ 0.1	-14.3
事業系合計	7,078.6	100.0	7,353.3	100.0	274.7	3.9

4) ごみ総排出量の推計

生活系ごみ排出量の推計値と事業系ごみ排出量の推計値を加算して算出した、ごみ総排出量の推計結果を図3-18、表3-23に示す。

計画目標年度の平成37年度におけるごみ総排出量は、平成26年度の28,860.7t/年から3.0%減少し、27,998.7t/年になるものと見込まれる。

図3-18 ごみ総排出量推計結果

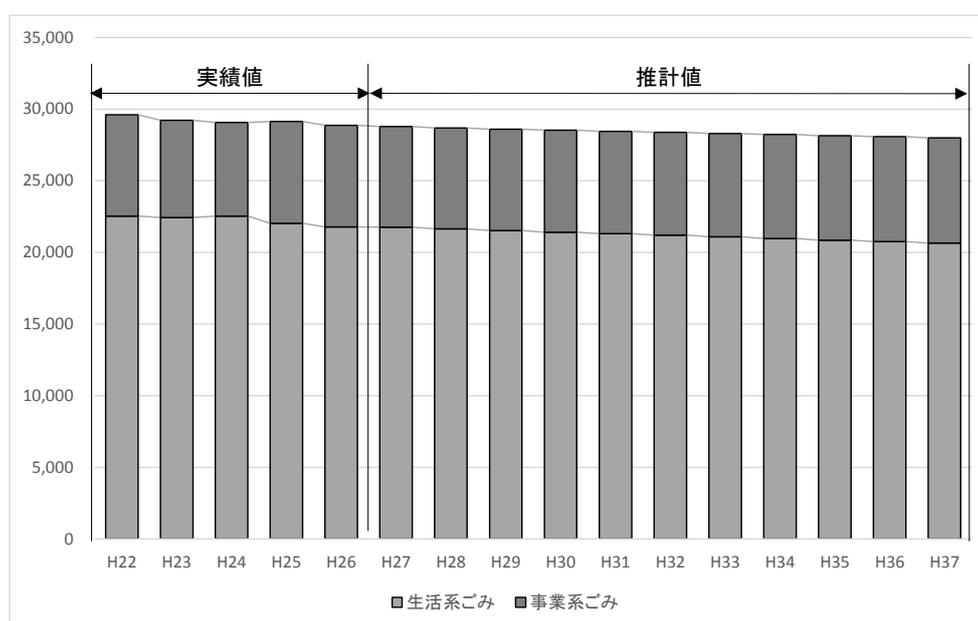


表3-23 ごみ排出量推計結果

項目	排出量 (t/量)		H26 に対する増加率 (%)
	H26 (実績値)	H37 (推計値)	
生活系ごみ	21,782.1	20,645.4	-5.2
事業系ごみ	7,078.6	7,353.3	3.9
総排出量	28,860.7	27,998.7	-3.0